



上成地区小地域福祉活動計画

年長者には優しく
子供たちには楽しく
大人は仲良く

上成地区社会福祉協議会

目標	課題	現在の活動		今後、活動すべき目標	具体的な活動の内容	スケジュール(年度)		
		誰が	活動の内容			27	28	29
高齢者と地域の関わり方	・徘徊する方をどのように見守るのか ・認知症になった方への支援の方法	地区社協	福祉講演会	① 小・中学校での認知症サポーター養成講座	小学校・中学校で児童・生徒とその保護者を対象に認知症サポーター養成講座を行う。 (地域の住民へ啓発、特に自分達の問題ではないと感じている世代への啓発を行うことで地域での偏見をなくしていくとともに、介護者・当事者にとって住みよいまちをめざす。また、関係機関との連携も目的とする。) 3年間で100名のサポーターを養成する。			→
	高齢者支援センター	認知症サポーター養成講座						
	・同居高齢者のサポート体制は 独居高齢者に比べて薄い	地区社協	小地域ケア会議で勉強会 友愛訪問 安心安全カード 向こう三軒両隣の見守りシステム 高齢者訪問(年3回)	② 向こう三軒両隣の見守りシステムの充実	27年度 対象者の見直し 28年度 協力者の養成 29年度 活動のまとめ			→
	・孤独死 ・ゴミを溜める ・火事が怖い							
	・独居の方で出てこない人はどうしているのか分からない ・高齢者の集える場所が欲しい	民生・愛育 地域住民 老人クラブ 市	一人暮らしの会 ふれあい会 サロン・趣味の会・老人クラブ 高齢者慰労会 高齢者給食サービス	③ 独居の会の活動PR ④ サロン活動の充実 ⑤ 高齢者の集いの場の情報収集 (サロン活動・老人クラブなど)	独居の会への助成とPR(3年間) サロン活動の充実・集いの場の情報収集 (27年度・28年度 地域のサロンの把握 29年度 交流会)			→
	・老々介護など介護の問題がある	地区社協 (当事者)	介護者の会	⑥ 地区社協だよりの発行 (地区社協だより配布についての確認)	作成時・配布時に子ども達にも協力してもらう。 共通ルールづくり(コーポ・マンション・借家・非会員への配布の有無) 27年度 実態調査 共通ルールづくり 29年度 見直しと実態調査			→
	・グループに入れない ・出るのが億劫 ・性格的に人とかかわるのが苦手	地区社協 (当事者)	介護者の会	⑦ 行事への参加の工夫	(1) 年間行事参加スタンプラリー・・・参加することにポイント付与などして、ゲーム感覚で行事に参加することを楽しんでもらい、より多くの人に参加してもらえるようにする。 (2) 反省会の時に、子供の意見を聞いて取り入れる。 親子での参加を促す。 中学生にボランティアとして行事の手伝いをしてもらう。 27年度～ 児童を対象に三世代事業など4回通してのスタンプラリーを行う。 29年度 実績を踏まえて対象者の再検討を行う。 (3) 行事への参加PRをしっかり行う。			→
	・外出する手段がない							
	・友愛訪問活動を行う方も大変	地区社協 (当事者)	介護者の会	⑧ 安全パトロールの工夫	安全パトロールの方に子供だけでなく、高齢者にも気を配ってもらう。			→
・元気高齢者も多い								
			⑨ 元気高齢者のマンパワーの発掘・活用	地域で定年を迎えた方(おおむね65歳以上)全ての人に声をかける。 (1) 見守りボランティア・サロン運営ボランティア・送迎ボランティアとして活動してもらう。 (2) 『65歳 これから講座』 団塊の世代が興味を持ちそうな講座を開き人材を確保する			→	

目標	課題	現在の活動		今後、活動すべき目標	具体的な活動の内容	スケジュール(年度)		
		誰が	活動の内容			27	28	29
地域の交通安全	<ul style="list-style-type: none"> 人目が少ない 見通しが悪い 不審者が増えている 	小学校	下校時、教諭による付き添い下校 安全パトロールに情報が流れる 地域の安全推進員に連絡が入る 見守り	⑩ 上成版防犯マップ作りと危険地帯のチェックリストづくり	(1) 地区社協と中学校の生徒と協力して、社協の夏ボラメニューとして取り組む。 (2) お助けマンや、緊急に駆け込める場所の確認を行う。		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 子供の道路の通り方が悪い 小学生登校時に車両が多い 自転車のマナーが悪い 	地区社協	交通安全教室(高齢者対象)	⑫ 自転車の乗り方教室	現在高齢者のみにしている安全教室を小・中学生、子供など対象を広げる。 27年度 検討 28年度 実施 29年度 実施		→	
地域での子供との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> 子供がどこで遊んでいるかわからない 	学校 地区社協	放課後こども教室 ふれあい文化祭・住民運動会 しめ縄づくり・とんどまつり 耐寒ファミリースポーツ 地域一斉清掃	⑦ 行事への参加の工夫(再掲)	(2) 反省会の時に、子供の意見を聞いて取り入れる。 親子での参加を促す。 中学生にボランティアとして行事の手伝いをしてもらう。 27年度～ 事業反省会時の学生の参加(出席またはアンケート) 27年度 中学生ボランティア 5人以上 28年度 中悪性ボランティア 8人以上 29年度 中学生ボランティア 10人以上		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 子供の人数が減っている 							
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会の参加が少ない 	子ども会	子ども会行事	⑬ PRチラシの作成(子供会でチラシを作る)	子供にとっての子ども会に入るメリットを伝える内容にする。 子ども会でチラシを作成し、地区社協が協力して配布する。		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 何でも学校のせいにする親が多い 親子の会話不足 親の干渉のしすぎ 			⑭ 親育ち教室(H27年度は認知症勉強会)	27年度 認知症勉強会 28年度 内容検討し、実施する。 29年度 内容検討し、実施する。		→	
地域の組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> 住民が地区の組織を知らない 地名や町名を知らない人もいる 	地区社協 各団体	地区社協だより・各広報紙を作成配布	⑮ 上成版 市民便利帳を作成する ⑯ 地区社協だよりの配布(再掲)(地区社協だより配布についての確認)	上成版 市民便利帳 27年度 調査 28年度 まとめ 29年度 作成		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の組織に加入しない 地域の組織の良さを知らない 活動を面倒がる 			⑯ 役員の負担を軽減する	デメリットばかりでなく組織の機能やメリットを伝える。 顔なじみになる。 27年度 地域の既存の組織の実態調査 28年度 団体PRのチラシの作成・配布1回(上成版市民便利帳に綴じこむことも検討) 29年度 団体PRチラシを利用したPR(地区社協だよりなどと共に家庭へ配布)		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 後継者の不足 各組織が弱体化している 役員間で連絡がとれない 			⑨ 元気高齢者のマンパワーの発掘・活用(再掲)	地域で定年を迎えた方(おおむね65歳以上)全ての人に声をかける。 (1) 見守りボランティア・サロン運営ボランティア・送迎ボランティアとして活動してもらう。 (2) 『65歳 これから講座』 団塊の世代が興味を持ちそうな講座を開き人材を確保する。		→	
	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協の活動が不明 地区社協の会費を払ってくれない 地区社協の行事に多くの人に参加してもらいたい 			⑰ 連絡網の作成	各組織・団体で責任をもって連絡し合える連絡網を作成する。		→	
				⑯ 地区社協だよりの発行(再掲) ⑱ 地区社協のホームページを作る ⑲ メール配信 ⑺ 行事への参加の工夫(再掲)	地区社協のホームページ メール配信 } 検討事項		→	

目標	課題	現在の活動		今後、活動すべき目標	具体的な活動の内容	スケジュール(年度)		
		誰が	活動の内容			27	28	29
ご近所との世代を超えたお付き合い	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を多くの目で見守る必要がある 町内で学区が違う つながりをもたがらない 	地区社協	あいさつ運動	①上成地区 住民一斉どこでもあいさつ運動 (再掲)	地域全体で挨拶する。 声をかけあい、顔見知りになることから始める。 (1) 挨拶運動展開中の旗の作成する。 (2) 期間中はどこでも誰でも声かけを行う。 27年度 旗の作成・挨拶運動期間 年4回(運動期間以外でも定期的に) 28年度 挨拶運動期間 年4回(顔を合わせたら挨拶できる関係) 29年度 挨拶運動期間 年4回(常時挨拶できる関係)			→
	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板を見ない 	町内会	回覧板のほかに 掲示板	⑩情報提供の手段を増やす	H27年度～ 玉島テレビの活用・掲示板の活用 メール配信(検討)			→
	<ul style="list-style-type: none"> 新旧住民の意識に差がある 住民の顔がわからない 	地区社協	ふれあい文化祭・住民運動会 しめ縄づくり・とんどまつり 耐寒ファミリースポーツ 地域一斉清掃	⑦行事への参加の工夫(再掲)	(1) 年間行事参加スタンプラリー・・・参加することにポイント付与などして、ゲーム感覚で行事に参加することを楽しんでもらい、より多くの人に参加してもらえるようにする。 (2) 反省会の時に、子供の意見を聞いて取り入れる。 親子での参加を促す。 中学生にボランティアとして行事の手伝いをしてもらう。 27年度～ 児童を対象に三世事業など4回通してのスタンプラリーを行う。 29年度 実績を踏まえて対象者の再検討を行う。 (3) 行事への参加PRをしっかりと行う。			→
	<ul style="list-style-type: none"> 行事の参加者が限定される 決まった人しか参加しない 							
<ul style="list-style-type: none"> 出かける手段がない 			検討課題	検討課題				

★上成地域の現状★

平成26年3月31日現在

地域	人口	世帯数	0歳～4歳	小学生	中学生	高齢化率	高齢者数 65歳以上	75歳以上 独居 高齢者数 (敬老調べより)
上成	7,059	2,767	412	441	568	23.0%	1,627	75
玉島地区	65,077	26,400	2,916	3,631	1,840	27.5%	17,912	912
倉敷市	483,134	200,833	22,917	27,909	13,746	24.6%	119,071	6,464

★策定にあたって★

上成地区社協は、昭和52年に結成し、40年の長きに亘って地域の福祉の充実と豊かで安心、安全の地域づくりのために、各種の地域活動を実践してきました。

特に、地域の人々の絆を強め連帯意識を高めるために、子供から高齢者までが交流を深めるための事業として、子供と地域住民が参加する、住民運動会やグラウンドゴルフ大会、餅つきやしめ縄づくり、とんど大会など世代間の交流事業に力を入れてきました。

それらの事業を展開する中で築きあげた強い信頼関係を基盤にして、上成地区に住んでよかったと皆に言われるような素敵な地域にしてゆきたい。

そのためにも、活動を展開するにあたって、皆が納得して参加し、本当に満足してもらうために、また地域により良い波及効果を広げるためにも、もう一度原点に戻って、活動を再考する必要があると考え、小地域福祉活動計画策定に取り組みました。